

ボランティア活動通信 No.4

令和7年1月29日

昨年度から開始した「広島県立文書館ボランティア」の活動も、のべ 130 回となりました。今回は、今年度後半の活動の中から、有田家文書の絵図の整理の様子や、古文書解読の取り組みなどを紹介します。

有田家文書の絵図の整理

有田家文書は安芸国賀茂郡郷村(東広島市)の庄屋・割庄屋を務めた有田家から寄託された文書です。2024年4月から、ボランティアの皆さんが目録作成を開始し、2025年1月までに、1,259点の仮目録作成と、3,824件のデータ入力を終えています。

有田家文書には、賀茂郡内の絵図がまとまって残っており、ボランティアの皆さんが、1点ずつ撮影して、目録を作成しました。



① 絵図の撮影

大判の絵図は折り畳んであるので、1点ずつ丁寧に広げて、描かれている内容を確認し、デジタルカメラで撮影しました。

大きな絵図の撮影では、絵図全体を撮影した後、折り目ごとに撮影番号を付して、その番号ごとに撮影しました。



② 絵図の復元

継ぎ目がはがれてしまい、バラバラになっている絵図もあります。絵図に描かれた道や川、山などをヒントにつながりを確認しながら、パズルを並べるように継ぎ目を合わせて、絵図を復元しました。



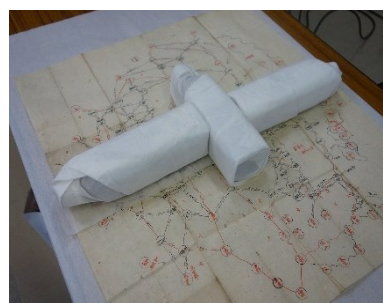
バラバラの状態の地図を広げていきます。

道や川筋を見ながら、地図を合わせていきます。

あとすこして、復元完成です。

③ 絵図の補修

継ぎ目のはがれた絵図は、生麩糊を使って、はがれた部分を慎重に貼り合わせました。



継ぎ目を合わせます。

のりしろに生麩糊を筆でつけます。

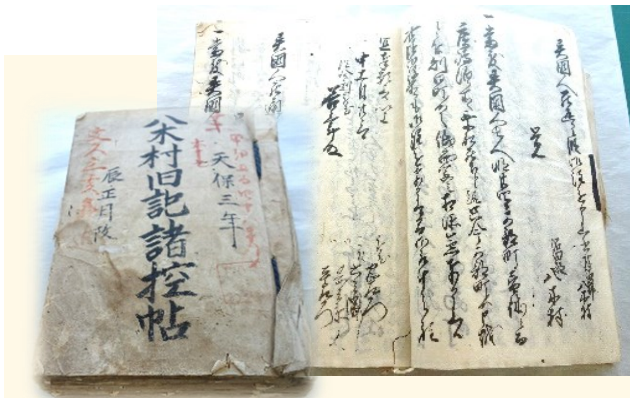
上からしっかり押さえます。

重しをして乾燥させます。

収蔵古文書の解読

2024年7月から、月1回、「八木村旧記諸控帖」の解読に取り組んでいます。

読み進んだ解読の成果は、ホームページのボランティアのコーナーで、順次公開していく予定です。



「八木村旧記諸控帖」(198829 安佐郡村役場文書 No.1)

旧安佐郡八木村(広島市)の村政にかかわる通達・願書や書付類の控をまとめた記録(御用留)です。江戸時代後期の八木村での洪水の被害をはじめ、村役人の任用、雨乞い祈祷、病人村継送り、五穀成就祈祷、引越願書付、異国之者通行一件、麻疹流行、鎮守祭など、村にかかわる様々な出来事が記されています。



応急処置を終えた被災文書の臭気への対処

文書館では「平成30年7月豪雨」で被災した文書の乾燥・修復作業を行い、応急処置を終えて寄贈された文書を保存していますが、文書には、まだ臭気が残っています。その臭気対策として、文書を収納している保存箱に、中性紙の厚紙と薄葉紙で作製した仕切板を入れる作業を行いました。



◆仕切板を入れて隙間を作り、保存箱内の空気循環を促進させて、臭気の軽減を図ります。

令和6年度行政文書・古文書保存管理講習会への参加 2024/11/1

国立歴史民俗博物館天野真志氏の講演会「多重災害期における歴史資料の保存と継承 —現状の課題から考える—」と、東京大学史料編纂所山口悟史氏のワークショップ「紙製資料の修理技術-裏打ちの実演と体験-」に参加しました。



「収蔵文書の紹介展」の見学説明会 2025/1/22

